全校集会　学校長の話（2026 年 6 月 23 日）

- きのうから、期末テストが順番に返ってきていますね。結果はどうだったでしょうか。先週の全校集会で、教頭先生からこんな話がありました。「テストで大切なのは、点数だけではなく、自分がどれだけ努力してきたか」。
  間違えた問題は、自分の弱点が見つかったということです。「ここが分かっていなかったんだな」と前向きにとらえて、夏休みにしっかり復習しておいてくださいね。

- さて、きょう 6 月 23 日は、沖縄では**「慰霊の日」**と呼ばれる日です。「慰霊（いれい）」は、亡くなった人の霊（たましい）を慰めるという意味です。「慰」は「なぐさめる」、「霊」は「たましい・死者の魂」。あわせて、戦争や災害などで亡くなった人の魂を、祈りや追悼によって慰め、安らかであるように願う、という言葉です。

- 81 年前、太平洋戦争の終わりごろ、沖縄では激しい地上戦が行われました。大阪も戦争で大きな被害を受けましたが、それは飛行機から焼夷弾（しょういだん）や爆弾を落とされたものです。広島・長崎も、原爆を落とされましたが、地上戦はありませんでした。沖縄戦では、日本軍とアメリカ軍だけでなく、そこに暮らしていた多くの住民が巻き込まれました。日本の中で、住民を巻き込んだこれほど大きな地上戦が行われたのは、沖縄だけです。

- 6 月 23 日は、沖縄戦の組織的な戦いが終わったとされる日です。沖縄県では、この日を「慰霊の日」と定めています。沖縄では、きょうは学校もお休みです。正午になると、県内のあちこちで黙とうがささげられます。糸満市の平和祈念公園では、追悼式が開かれます。
  沖縄戦では、およそ 20 万人の命が失われました。その中には、兵隊だけでなく、ふつうに暮らしていた住民もたくさん含まれています。沖縄に住んでいた人の、4 人に 1 人が亡くなったとも言われています。

- 4 人に 1 人。

- この体育館で、自分のまわりを少し見渡してみてください。例えはよくないですが、前後左右にいる仲間のうち、誰か一人が、という数です。それほど多くの命が、沖縄で失われました。

- 実は、この話は、4 月にした話ともつながっています。覚えているでしょうか。4 月 28 日、「主権回復の日」と「屈辱の日」の話をしました。1952 年、アメリカの統治下にあった日本が、独立を取り戻しました。しかし、沖縄は日本から切り離され、その後 20 年間、アメリカの統治下に置かれました。
  同じ日でも、「独立を取り戻した日」と受け取る人がいれば、「切り離された日」と受け取る人もいる。光と影、その両方を見よう、という話をしました。

- その影は、今も完全には終わっていません。沖縄が日本に戻って 50 年以上たった今も、日本にあるアメリカ軍専用の基地の約 70 パーセントが、沖縄に集中しています。沖縄の面積は、日本全体のわずか 0.6 パーセントほどです。その小さな場所に、大きな負担が、ずっとかかり続けてきました。飛行機の音、事故への不安、土地の問題。沖縄の人たちは、戦争が終わった後も、長い間その重さを背負い続けています。

- もちろん、沖縄が背負ってきた歴史を、私たちの学校生活の話に簡単に置き換えることはできません。そんな軽い話ではありません。
  しかし、考えてみてください。誰かに重いものが偏っていないか。それに、私たちも気づけているか、ということです。

- 「みんなのため」と言いながら、いつも同じ人にしんどい役割が回っていないでしょうか。誰かが我慢していることに、気づかないまま過ごしてはいないか。自分が楽をしているとき、その分、どこかで誰かが重いものを背負っているのかもしれない。

- 僕がいつもお願いしていることがあります。
  自分を大切にすること。そして、隣にいる人を大切にすること。きょうは、その「隣にいる人」を、少し遠くまで広げて考えてみてください。沖縄で亡くなった人たちのこと。今も沖縄で暮らしている人たちのこと。そして、自分のすぐ近くで、何かを背負っているかもしれない人のこと。

- きょうは、ほんの少しでいいので、沖縄のことを思ってみてくれたらうれしいです。